

はにい『誰もが安心して学べる体育の授業』

令和6年12月17日



「みんな、どんな回り方ができたかな」「ぼく、できるよ」1人の児童が、元気よく手を挙げ、前に出る。ただ、少し緊張したのか、どこでスタートすればよいのかわからなくなり、困っている。その姿を見て、周りの子たちが「ここでやるんだよ」「大丈夫だよ」と優しく声をかける。

「大丈夫」を伝えられる子どもたちがつくる温かい雰囲気、みんなの安心につながり笑顔で活動している。

2年生の体育「マットを使った運動遊び」の授業。わかりやすく、図を使って動き方を示したり、説明を簡潔にしたり、先生のみんに伝える工夫が様々なところに表れる。子ども同士も「今のわかった?」「いっしょにいこう」。『みんなで学びを楽しもう』という雰囲気が、たくさんの場面で見られる。



愛川町立中津小学校では、誰ひとり取り残されないインクルーシブな学校をめざしている。中津小学校には、外国につながるのある子が、全校児童の約25%いる。

「外国につながるのある子との授業中のコミュニケーションが難しいと感じる時もあります。こちらが子どもたちのことを理解しようとするのがとても大切だと感じています。」と、先生が語る。

「『ありがとう』という感謝の言葉を多く言うようになりました。『ありがとう』を言い続けていると、子どもたちの間にも相手を思いやる言葉が増えてきたように思います。」

笑顔で語ってくれた先生は、自主的にスペイン語を学び、今度スペイン語検定を受ける予定。言語が伝わることも大事、それ以上に先生の「その子どもを知りたいという気持ち」が子どもたちに伝わり、柔らかな学級風土、学校風土を作っていることを感じた1日だった。

『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合いましょう。